

令和5年度「杉並区中学生小笠原自然体験交流事業」の実施報告について

令和5年度の杉並区中学生小笠原自然体験交流事業について、実施報告する。

1 目的

- 世界自然遺産である小笠原の貴重な自然体験や自然に育まれた文化を通して、子どもたちの豊かな人間性を育む。
- 自然体験を通じ、各学校・地域における環境保全活動の推進役となる世界的視野で持続可能な社会を考えることができる生徒を育成する。

2 実施期間

令和6年3月21日（木）～3月26日（火）【5泊6日（内船中泊2日）】

3 派遣者

- 区内在住中学生27名（区立中学校生徒24名 私立等中学校生徒3名）
 - ・選考への応募総数52名（区立中学校46名、私立等中学校6名）
 - ・1次審査 応募作文による書類審査 ※一次通過者 38名
 - ・2次審査 個人面接及びグループ面接 ※最終決定者 27名
- 引率者6名（区立中学校校長1名、区立中学校教員1名、特別支援教育課指導主事1名、済美教育センター統括指導主事1名、指導主事1名、主事1名）

4 主な内容

- 小笠原についての興味・関心を高め、知識・理解を深めるための事前学習会（3回）
- 現地における自然体験（星空観察、シュノーケリング、ホエールウォッチング、父島ネイチャーガイド）
- 現地の方々との体験交流（南洋踊り・フラダンス・ビーチクリーン講習）
- 各自及びグループで設定した課題の追究（施設見学、インタビュー、文献調査等）
課題例：島の発展と環境保護の両立、固有種の特徴と保護、海洋ゴミと生き物
空港建設が自然環境に与える影響、小笠原諸島の食文化 等

5 今後の取組

- 事後学習会（令和6年4月～7月に3回実施）において、各自が設定した課題に対する学習内容や成果についてまとめる。
- 成果報告会（令和6年7月27日（土））において、学習内容や成果を発表する。
- 学校や地域の環境保全活動に積極的に関わり、成果を還元していく。